

私もアンペアアダウン

変わる日常

「3.11」後を生きる

この夏、家庭の契約電流の容量を引き下げる「アンペアアダウン」が広がっている。基本料金が安くなるうえ、ブレーカーを落とすまいとする心がけが節電につながるという。手間をかけるから、電気への依存度を下げる生活を楽しむ人たちもいる。

契約の変更 前年の2倍

生活工夫、楽しく節電



掃除機をやめ、ほうきで掃除する志村瑞枝さん＝東京都中野区

契約アンペアの変更

アンペアは電流の単位。各家は電気の使用量に応じ契約アンペアを選べる。契約量を超えるとブレーカーが落ち、電気の供給が止

まる。東電の場合、基本料金は一般家庭に多い契約種別で1カ月2735～16638円。変更は東電のウェブサイトで電話で申し込む。一度変更すると、原則1年以内は再変更できない。

東京都品川区の会社員平戸実生さん(39)は6月、30瓦だった住宅の契約を20瓦に下げた。819円だった毎月の基本料金は273円安くなった。照明の使用を抑え、髪はドライヤーを使わずに自然乾燥させる。その結果、7月の使用電力量は昨年より24%減った。アンペアアダウンに踏み切った決め手は、東京電力福島第一原発の事故。以前から関心はあったが、「我慢を強いられるのでは」とためらっていた。事故後に原発反対のデモに参加し、アンペアアダウンを実践する人の話を聞き、背中を押された。

「やってみると、無駄遣いをしないように少し意識する程度。それで結果的に使用量や電気代も減るから、いいですね」と話す。東電は10～60瓦の間で契約アンペアの変更が無料で応じている。今年の変更申込件数は4～7月、前年同期の2倍以上に急増。6月には約5倍に上った週末もあり、一時は工事が1週間待ちになったことも。東電は「例年、夏はアンペアを上げる依頼が多いが、今年は10瓦程度引き下げる家庭が多いようだ」(広報部)とみる。8月の変更依頼も昨年の約1.3倍という。

2年半前に30瓦から20瓦に落とし、今年5月にさらに5瓦下げた東京都中野区の志村瑞枝さん(46)も、節電生活を工夫してきた。夫婦2人暮らしの契約は15瓦で月額基本料金は409円50銭。猛暑だった7月も電気代は2千円を下回った。窓にすだれをかけて日差しを遮り、エアコンはつけない。炊飯器はやめて鉄釜にし、掃除機をやめてほうきを使う。食卓にはろうそくをとます。「ご飯はお釜で炊いた方がおいしいし、ろうそくなども良い素材のものが見つかるとうれしい」。

「無理をしない」をモットーに、予約録画の多いDVDレコーダーは常時電源を入れ、オープンレンジなども使う。ただ、使う前に一声かけ合い、消費電力の多い別の家電との同時使用は避けるという。志村さんは自らの体験を環境NGO「ナマケモノ倶楽部」(東京)の催しで伝えている。「家庭のアンペア設定は工務店や家主任せが多く、余裕を持たせてある」「多くの家庭がピーク時の使用電力を下げれば、無駄な発電施設を造らせずに済む」と訴える。

地域ぐるみで取り組む例も出てきた。神奈川県鎌倉市、逗子市、葉山町の住民約60人でつくるグループ「たいよう講」では16世帯が計320瓦引き下げた。「竹製の枕で寝ると涼しい」など実践中の工夫を披露し合い、再生可能エネルギーの勉強も重ねる。安くなった電気代の明細を見て、「もっと節電したい」と意欲的になる人も現れている。(菅田和華子)